

## 週日の説教

金 大烈 神父 2011年6月15日(水)

### 《本当に恥じ入るのは神様の御前で》

今日の福音(マタイ 6・1-6、16-18)の箇所は説教の資料としても、例え話としても、よく使われる内容だと思います。この箇所を読む時にいつも思い浮かぶことがあります。

先ず「見せようとしながら善いことをしないで下さい」とイエス様はおっしゃっています。しかし、私は以前にも皆様に申し上げたと思いますが、見せようとしてもいいので善いことをしてほしい。見せようとしてもいいので祈る姿を見せてほしいと思います。現代はあまりにも人を感動させる姿が足りなく、目につくこともなく、見えなくなった世界ではないかと思います。

今日のイエス様の御言葉は、「隠れて誰もいないところで祈りなさい。」これはきわめて基本的なことです。しかし、普通に見えるところで何も出来ない人が、見えないところで善いことをするのも難しいです。大体見えるところで上手くやれる人が、見えない所でも上手くやるのではないのでしょうか。もちろん、今日の福音のように偽善者達もいます。そして私達も皆、そういう偽善なところを持っています。何か善いことをしたら、褒めてもらいたい気持ちが生じるのは本能的なことです。私はそれをそんなに悪く思う必要はないと思います。ちょっと善いことならば人々に見せて人々を感動させ、人々の気持ちを動かすことは、もっと現実的ではないかと思います。この考え方で私がイエス様に反発するわけではありません。このような考えも必要ではないかと思うことです。

さあ、あるおじさんが朝に一日も欠かさず、長い時間をかけて新聞を読む習慣があったそうです。その姿を見て、お嫁さんは毎日お父さんに新聞を運んだそうです。しかし、実際にはこのお父さんは字を読めなかったのです。それなのに何十年も新聞を読む姿をお嫁さんに見せていたわけです。

その原因は何でしょうか。それは恥でしょう。お嫁さんに自分の恥を見せたくなかったのでしょう。ですから、何とか熱心に取り組んでいる姿をお嫁さんに見せたわけです。皆様はどう思われますか。気のどくだと思いますか。「ああ、この人苦労しているのだ」と思うのでしょうか。もしこのお父さんが恥の意味を理解して、一ヶ月位勉強すれば文字ぐらいいは読めたでしょう。しかし、「恥ずかしい、恥ずかしい」と言いながら、何十年間も一番大事なことを失ってしまったと思います。

実際にこの話は、極端的かも知れませんが、大体私達の生活を見てみますと、本当にこれに恥を感じるべきかと思うものに命をかける場合が結構あります。この世の中、恥を感じるべきものに恥を感じ、恥とを感じる必要のないものをちゃんと分かって識別すれば、色々な恥ずかしさがなくなると思います。そして色々な不必要なエネルギーを使わなくなります。

私が今も心に刻んでいる聖書の一つの箇所があります。私の叙階の時、祈って下さった方々のために作ったカードに入れた御言葉です。「詩編の51」のところです。「神様、あなたは心の真実を喜んで受け入れて下さる」日本語ではどのように訳されているかは分からないのですが、「あなたは心の真

実を喜ばれる」の意味です。もし私達が、自分に対してもっと真実にありのまま近づくことが出来れば、色々な病から癒されると思います。しかし自分にも隠したい、自分に対しても隠したいものを沢山持っているのが人間の弱さかも知れません。

皆様、どうすれば真実な自分に近づけるのでしょうか。私達には唯一つしかありません。それは“イエス様の愛を体験すること”です。このような足りない者でもあなたは相変わらず愛して下さいます。という告白が出来ればもっと真実に近づく私達になれるのではないかと思います。

皆様、私達が本当に恥を感じなければならないのは神様の御前においてです。そのような信仰的な体験が、何よりも必要ではないかと今日の福音を読んで考えてみました。

ありがとうございます。